



# 協会ニュース

## 第22号

平成18年1月27日発行

編集発行人/服部 桂 〒150-0031 東京都渋谷区桜丘町15-17 (日本基礎技術株式会社内) TEL (03) 3476-5721 FAX (03) 5489-7821  
[ホームページURL] <http://www7.ocn.ne.jp/~rta/>

## 年頭にあたって

岩盤削孔技術協会会長

三谷 健



明けましておめでとうございます。

当協会が大口径岩盤削孔研究会として発足したのは、平成元年11月でした。その後、名称を岩盤削孔技術協会と変え、研究会が発足した平成元年から数えて、今年は18周年になります。その間、厳しい経済状況下にあっても、会員皆様のご努力によって当協会も着々と実績をあげております。ひとえに会員皆様の協力のおかげと感謝いたしております。

本年、国は"激化する国際競争への対応"および"国民生活水準の維持・向上"を目的として、重点的に経済発展の基礎になる社会資本の整備—港湾・空港・道路・鉄道—を進めるとしてあります。

さらに地震・風水害などの大規模自然災害に対し、再発防止の観点から"防災・減災等による安全社会の確立"を重視するとしてあります。

土木分野の技術は重要な位置にあり、国民の期待は非常に大きいものがあります。

本年以降の日本経済の見通しは"踊り場脱却から回復"に向けた動きを続けると予想されています。

ここで一番踏ん張って、この困難を乗り切れば、必ずや明るい未来の光りが見えてくるはずですよ。

協会もできるだけ経費を切りつめて、会員皆さんと協力して、地道ではありますが、実のある仕事に集中していくつもりです。

積算資料の提供については、(社)日本建設機械化協会殿における国土交通省・関係機関および関係業界の方々による「大口径岩盤削孔技術委員会」で、オーガ掘削工法・ケーシング回転掘削工法・ロータリー掘削工法・パーカッション掘削工法の4工法について、(社)日本建設機械化協会殿により「大口径岩盤削孔工法の積算」を発刊していただいております。

岩盤分類の研究については、現在の岩盤削孔のための岩盤分類は、主に1軸圧縮強度を指標としておりますが、硬岩と判定される岩盤の領域が非常に広く、所定の掘削時間で掘削できない場合が多々あります。

このような状況に鑑み、学識経験者および発注官庁の専門の方々による「削孔を対象とした岩盤分類検討委員会」(委員長・西松裕一東大名誉教授)で統一された岩盤分類について検討を行い、「削孔を対象とした岩盤分類報告書」のとりまとめを行い、発刊いたしました。

大口径岩盤削孔工法・施工機械技術資料の発刊については、オーガ掘削工法、ロータリー掘削工法、パーカッション掘削工法、ケーシング回転掘削工法の概要、掘削工法・機械一覧の技術資料のとりまとめを行い、平成18年度版を発刊いたします。

リーダ式ケーシング回転掘削工法積算資料の作成については、適用範囲、工法の概要、リーダ式ケーシング回転掘削工法の標準積算、参考資料を日歩掛り方式でとりまとめを行い、発刊いたします。

岩盤削孔技術協会カタログについては、大口径岩盤削孔工法、工法分類と適用地質(オーガ掘削、ロータリー掘削、パーカッション掘削、ケーシング回転掘削)、施工実績のとりまとめを行い、発刊いたしました。

会員施工会社施工実績調査表(平成16.4~平成17.3)についてはオーガ掘削工法、ロータリー掘削工法、パーカッション掘削工法、ケーシング回転掘削工法の施工実績と分析を行って発刊いたしました。

岩盤削孔技術協会工法紹介ビデオについては、より多くの技術者に削孔技術の正しい知識を習得していただくため、大地の特性、岩盤と削孔特性、様々な削孔技術、これからの土木を内容としたビデオ(岩盤を掘る19分)の制作を行い、発刊いたしました。

岩盤削孔技術協会ホームページについては、協会の情報および会員会社の情報を、国内はもとより海外にも提供しております。また協会のホームページリンクによって、会員会社のホームページを瞬時に参照することもできます。アクロパットリーダーの利用により、協会ニュースなどの多量の情報を得ることもできます。

社会環境の厳しい中であって、協会は堅実に力強く一步一步歩んでいます。今年こそは、みんなで良い年にしましょう。

### 委員会活動報告

#### 1. 運営委員会 2回(継続)

平成17年8月25日~平成17年12月1日

- ・リーダ式ケーシング回転掘削工法の審議
- ・協会ニュースの審議

- ・ホームページの審議
- ・大口径岩盤削孔工法の積算資料の審議
- ・工法・施工機械技術資料の審議
- ・総会の日程審議
- ・予算の審議
- ・旅費支給の審議

2. リーダ式ケーシング回転掘削工法日歩掛り分科会  
2回 (継続)  
平成17年8月25日～平成17年12月1日  
・ リーダ式ケーシング回転掘削工法日歩掛りの審議
3. 「協会ニュース」編集分科会 1回 (継続)  
平成17年12月1日  
・ 協会ニュース編集計画決定  
・ 協会ニュース執筆担当者決定
4. ホームページ分科会 2回 (継続)  
・ 内容の審議  
・ ホームページ改訂箇所の報告

5. (社)日本建設機械化協会技術委員会参加  
2回 (継続)  
・ 「大口径岩盤削孔工法の積算」平成18年度版改訂審議

広報活動

1. 協会ニュース 1回  
第21号
2. ホームページ改訂  
平成17年8月30日・平成17年11月17日

工法・新製品紹介

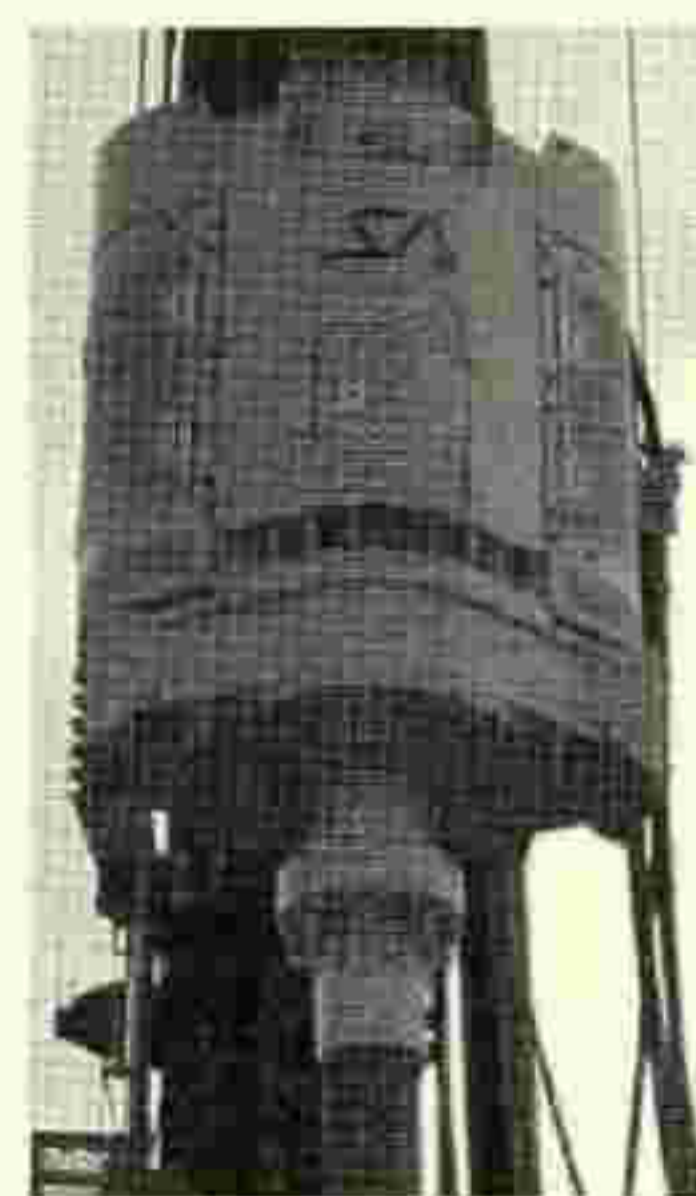
## スーパーオーガ SAシリーズ

80馬力のロックオーガから240馬力のモノドーナツオーガまで、スーパーオーガSAシリーズがラインアップされました。

SAシリーズは、回転数を変化させた場合でもトルク低下を起こさない『フラットトルク特性』を生かした機種で、任意の回転数を設定できるため掘削・排土の効率化が図れ、岩盤削孔、地盤改良、中掘根固めなどの工法に幅広くご使用いただける新世代オーガです。

■特長

- ①オーガ出力軸の回転速度を低速～高速まで無段階に変速可能  
・ 回転速度を変更できるため、さまざまな地盤状況・工法に対応し、適切な回転数を設定できます。
- ②『フラットトルク特性』によりトルク低下なし  
・ 専用モータとインバータ制御により、低速域でのトルク低下を抑えています。
- ③多重な安全対策  
・ 過電流保護、モータ温度監視、欠相検知、トルクリミッタ(オープンション)など多重の安全機構を搭載しています。
- ④2通りの運転方法を選択  
・ 商用運転とインバータ運転の切替選択によって両者の長所を生かした施工ができます。
- ⑤新型スィベルを装備  
・ 新設計のベアリング内蔵型のスィベルを採用、耐久性が向上しました。



■機械仕様

型式	モータ		インバータ運転				商用運転							
							50Hz				60Hz			
			KW	極数	内側		外側		内側		外側		内側	
回転速度 (min <sup>-1</sup> )	出力トルク (kN・m)	回転速度 (min <sup>-1</sup> )			出力トルク (kN・m)	回転速度 (min <sup>-1</sup> )	出力トルク (kN・m)	回転速度 (min <sup>-1</sup> )	出力トルク (kN・m)	回転速度 (min <sup>-1</sup> )	出力トルク (kN・m)	回転速度 (min <sup>-1</sup> )	出力トルク (kN・m)	
SA-D-150H	110	6P	3~17	80			13	80			16	67		
SA-D-150H(sp)	110	6P	2~14	98			11	98			13	82		
SA-D-200H	150	6P	3~17	78			13	109			16	92		
SA-D-240H	180	6P	3~17	131			13	131			16	110		
SA-SM D-150H	110	6P	3~17	80	1~6	217	13	80	5	217	16	67	6	181
SA-SM D-150H(sp)	110	6P	2~14	98	1~5	265	11	98	4	265	13	82	5	221
SA-SM D-200H	150	6P	3~17	78	1~6	211	13	109	5	296	16	92	6	247
SA-SM D-240H	180	6P	3~17	131	1~6	355	13	131	5	355	16	110	6	296

※表内数値は代表数値です。

# User Interview

成幸工業 (株) 工事部課長 植山 大二郎氏

今回は、ケーシング回転工法、ロックオーガ工法および一般的にはSMW工法と称される柱列式連続壁工法を開発した成幸工業(株)東京本店の工事部植山課長を訪ねてインタビューしました。

記者: 成幸工業と言えばSMWと言うイメージが強いですが、ケーシング回転工法やロックオーガ工法はどのようなところでお使いですか。

植山: 当社の場合基礎杭施工というよりも、都市開発における旧躯体・旧基礎杭等の撤去工事がメインになります。最近特に再開発工事が多くケーシング回転工法・ロックオーガ工法の受注が多く、当社においても売上の割合が以前より増える傾向にあります。

記者: 旧躯体・旧基礎杭等の撤去において苦労する事はありますか。

植山: やはり近隣住民に対しての騒音・振動ですね。我々細心の注意を払い施工していますが、旧図面に載っていない躯体があったり、位置がずれていたりと、配筋サイズが違ったりで、思わぬ騒音・振動に悩まされる事は頻繁にあります。また、ケーシング回転工法・ロックオーガ工法において旧躯体・旧基礎杭等を完全に撤去出来ない、その後施工するSMWの品質低下の要因になったり、残置した旧躯体が障害となり削孔不能の原因になりかねません。

最近のトラブルとして、旧躯体の柱の強度が思っていた以上に硬く、1本の柱を壊すのに3日も掛かり現場工程に迷惑をかけたことを、反省しています。今度からは旧躯体図から施工時期等をしっかり調べ、

事前の検討を十分行って安全管理・品質管理・工程管理等をしっかり行いたいと思います

記者: 貴社においては特殊SMW機があると聞いていますが。

植山: はい、当社にて通常SMW機と高さの低い低空頭タイプのSMW7500, SMW5000, SMW3000型



植山 大二郎氏

があります。特に高さ制限のある場所や幅の狭い場所で活躍しています。

記者: 岩盤削孔協会のメンバーの中には、低空仕様の機械をお持ちなのは、ご存知ですか。

植山: はい。「協会ニュース」の工法・新製品紹介の記事を読んで知っています。これからの都市土木では、高さ制限があったり、幅の狭い場所での基礎杭打ちや障害撤去・SMW等の工事が増えると思いますので、協会メンバーの技術と当社の技術をタイアップして特殊条件での工事を受注出来ればと考えています。

記者: 最後に、今後の夢をお聞かせ下さい。

植山: 現在あるケーシング回転工法・ロックオーガ工法の機械は低騒音・低振動機はありますが、無騒音・無振動機は、まだ開発されていないのでメーカーは勿論ですが、協会会員の各技術担当の英知を結集し、現在あるビットの先端にレーザー光線やプラズマカッター等を加工取り付けし無騒音・無振動の機械を開発・作成し、近隣住民等に迷惑をかけないケーシング工法・ロックオーガ工法の発展に貢献したいと思っています。

記者: お忙しいところありがとうございました。今後のますますのご活躍をお祈りいたします。

(成幸工業(株)東京本店 中塚 耕司)

## 岩盤削孔工事施工事例の紹介

### B G工法による山間部での抑止杭打設工事

#### 1. 工事概要

直轄地すべり対策事業「ピラシケ地区」における地すべり抑止工である。

現場は国営かんがい事業で築造された三石ダム貯水池内で、周辺の地質は日高累層群に分類され破碎を受けた泥質の基質中に礫状～岩塊状の砂岩、玄武岩、凝灰岩などが複雑に混じった、いわゆるメランジュ相を示している。当地区の地すべりブロックはA、B、Cブロックの3ブロックに大別されている。今回はCブロックでダム貯水池上流の左岸斜面に分布し幅75～220m、長さ185～350mの中～大規模な地すべりブロック(岩盤～風化岩地すべり)である。一部、非常に硬質なチャートの岩塊が出現する。

現場への機資材搬入ルートは非常に狭く、約5kmの砂利道が続く急な登り坂であった。ヘアピンカーブもあることから、搬入車両が10t車までに制限されていたため、機械が小型で自走可能なBG機による施工が採用された。搬入は、自走で約5時間を要した。

工事数量表

削孔径	杭径	杭長	削孔長	数量
φ650	φ508 t38	L=25.0 ~27.2m	L=25.0 ~27.2m	59本



施工全景

- ① 工事場所: 北海道三石郡三石町
- ② 事業主体: 国土交通省北海道開発局室蘭開発建設部日高農業開発事業所
- ③ 発注者: 開発工建株式会社
- ④ 施工時期: 平成15年11月～平成15年12月
- ⑤ 工事内容: 抑止杭打設工事

2. 施工方法

施工は、BG-14型削孔機2台にて行った。対象土質は、崩壊性砂礫層と玄武岩であった。また、一部非常に硬質なチャートが出現した。チャートは、一軸圧縮強度112.7~156.1MN/m<sup>2</sup>、岩片弾性速度5.43~5.58km/sの中硬岩~硬岩I相当であった。

削孔方法は、孔壁保護を目的にケーシング削孔で行い、中掘は玉石、岩盤削孔を考慮しダウンザホールハンマ工法とした。鋼管杭(Gパイル)の建込みは65t吊クローラクレーンにて行った。鋼管杭の中詰はコンクリート、外周はモルタルを注入し完了とした。

3. おわりに

今回、紹介した施工例は山間部のため搬入に支障のある現場での地すべり防止工事である。機械が小型で自走可能な本工法の特長を生かした現場であった。



BG機本体搬入(自走)

(日本基礎技術(株) 加藤充)

官公庁関係情報

1. ユニットプライス型積算方式導入の海外の積算方式：各国の概要

海外ではユニットプライス型積算方式が一般的

	日本		アメリカ	イギリス	ドイツ	フランス
	(国土交通省:土木)		(カリフォルニア州交通局)	(運輸行)	(ニーダーザクセン州道路局) (バイエルン州道路局) (高速道路公社)	(設備・住宅運輸省) エノントラポート局 (セーヌ・サン・ドニール県 水道局)
契約方式	●総価契約	●総価契約単価合意	●単価契約	●単価契約	●単価契約	●単価契約
積算方式	●積み上げ方式	●施工単価方式 ●積算に過去の契約データを活用	●施工単価方式 ●積算に過去の入札データを活用	●施工単価方式 ●積算に過去の入札データを活用	●施工単価方式 ●積算に過去の入札データを活用	●施工単価方式 ●積算に過去の入札データを活用
間接工事費	●重畳工事費等に対する率計算で別添計上 ●共通取費の一部は積み上げて別添計上	●単価に間接工事費の一部が含まれる ●共通取費の一部は、直接工事費(ユニット)に対する率計算で別添計上、及び積み上げて別添計上	●単価に間接工事費が含まれる ●乗り込み費・撤去費等は別添計上	●単価に間接工事費が含まれる ●間接工事費等は別添計上	●単価に間接工事費が含まれる ●数量で把握できるものは、日本で共通取費、現場管理費相当のもの、数量×単価で算出	●単価に間接工事費が含まれる ●数量で把握できるものは、日本で共通取費、現場管理費相当のもの、数量×単価で算出
一般管理費等	●工事原簿に対する率 ●この項目では元請のみ	●設計段階は、工事原簿に対する率 ●この項目では元請のみ ●下流分は直接工事費ユニットに内定する間接工事費(現場管理費)に含まれる	●各工種の施工単価に含まれる	●各工種の施工単価に含まれる	●各工種の施工単価に含まれる	●各工種の施工単価に含まれる

※日本版ユニットプライス型積算方式の特徴は、予定価格の下での総価契約が前提となることを考慮し、ユニットプライスの設定に際しては、総価(落札率)で一定幅の標準的なデータを抽出し、個別の特異な要因によると考えられる外れ値を棄却し、必要に応じてユニットの条件区分の見直しを図る等、極めて細かな分析を経てユニットプライスを設定する。

【ポイント】

- 諸外国では、ユニットプライス型積算方式が一般的である。
- 諸外国の制度を参考にしつつ、日本の公共調達に適合した制度の導入

【解説】

・日本にとっては、新しい積算方式であるが、海外ではユニットプラ

イス型積算方式が一般的であり、今回の導入により世界標準に近くものである。

- ・海外が単価契約としているのに対し、日本では、会計法において、雑役務以外については、単価契約が認められていないため、総価で契約した後に単価協議・合意を行う、総価契約単価合意方式をとっている。
- ・積算に関しては、日本は海外と比較して、法制度等では、「予定価格の上限拘束性」が存在すること、契約方式で海外が単価契約であるのに対して、「総価契約」であることが大きな特徴となっている。
- ・海外と同じ制度をそのまま持ち込む訳では無く、日本の法制度や社会的条件に適応した制度設計を行うものである。

2. 建設機械の排出ガス対策

我が国の大気汚染の現状

自動車全体における建設機械からの排出ガスは、NO<sub>x</sub>で約2割、PMで約1割を占めています。

窒素酸化物(NO<sub>x</sub>)や粒子状物質(PM)は、大気汚染の原因物質として大きな社会問題となっており、呼吸困難や気管支炎等の健康に与える影響が懸念されています。自動車全体におけるこれらの汚染物質の発生には、ディーゼル車からの排出ガスに次いで建設機械からの排出ガスが大きな影響を与えています。

排出ガス対策の取組と現状

排出ガス対策型建設機械の普及率が約6割に達しています。

国土交通省では、排出ガス対策を施した建設機械を「排出ガス対策型建設機械」として指定する制度の実施のほか、国土交通省が発注する工事に対しての使用原則化、購入者に低利融資を行う支援対策などの取組みを行っています。

また、国土交通省が発注するだけでなく、全国の都道府県および政令指定都市の約9割の地方公共団体でも、国土交通省の排出ガス対策型建設機械の使用原則化の施策が準用される等、施策の効果が拡大しています。このような取組みを通じて、排出ガス対策型建設機械の普及率が約6割に達しています。

さらなる排出ガス対策の推進

公道を走行しない特殊自動車を対象として排出ガス規制が導入されます。

「特定特殊自動車排出ガスの規制等に関する法律」の施行により、公道を走行しないバックホウ、ブルドーザ、トラクタショベル、フォークリフト、農耕用トラクタなどの特定特殊自動車を対象として、平成18年10月(予定)より排出ガス規制が開始されます。

これに伴い、法施行後に製作された特定特殊自動車を対象として排出ガス基準適合車の使用が義務付けられます。

(国土交通省発表資料より)



## — 私の履歴書 —

(株)塩見組 代表取締役社長 末吉 政人



末吉 政人 (すえよし まさと)  
昭和28年4月10日鹿児島県生まれ  
昭和52年(株)塩見組入社  
平成13年 代表取締役社長に就任

### ■学生時代

鹿児島県の市来町は薩摩半島の北部に位置し、人口7千人の小さな町です。私の生まれたところはその中心部より5 km程山あいに入った20数戸の集落です。環境もよく自然に恵まれています。ただ、学校までの道のりは高低差がきつ、小学校低学年の足では学校までの遠さを感じていました。雪が降った日は学校には行かず、友達と山で遊んで1日を過ごしたこともあり。おかげで足腰は鍛えられ丈夫になりました。

高校の3年間は列車通学で当時は蒸気機関車であり

、窓を閉め忘れて、トンネルを出たら顔が真っ黒になったのを覚えております。

### ■社会に出て

高校を卒業後上京し、建設会社の現場事務を3年間、帰郷し警備会社で2年間勤務し、

昭和52年8月塩見組鹿児島支店に入社

昭和58年1月塩見組本社経理課勤務となる

その後総務、経理を経て平成13年5月に社長就任

事務屋上がりの私には技術的な事がわからず、日々、勉強が続いており、逆に社員に助けられて今日まで来ております。建設業を取り巻く環境は依然として、厳しい状況が続いてお

りますが、全社員一致団結して苦境を乗り越えたいと思っております。基礎工事のあらゆる工法に対応できるよう専門分野としての地位を確立し、協会会員としての誇りを持ち続けたいです。

### ■信条、趣味

信条は地域社会への貢献です。

顧客ニーズを正確に把握し、確かな技術力と安全性での製品を提供し、活力ある会社を目指し社員は地域社会の一員として社会貢献に努めます。又、何事に対しても「最後まであきらめない」をモットーにしています。

業種がら免許、資格が必要な為教育・訓練には、積極的に取り組み、社員の能力向上を目指しています。

定期的に工事現場の安全パトロールを実施し、労いの言葉を掛けるよう努めています。

趣味は温泉に入る事です。

休日は近くの温泉に行き汗を流し、日頃の疲れを癒すのが楽しみとなっております。連休の時は1泊2日で九州管内の温泉めぐりをする事もあります。

スポーツはゴルフ、ポーリングを付き合い程度でします。汗は流しますが、スコアはなかなか上達しません。

### ■今後の展望

北九州はわが国黎明期における文化の先進地域として発達してまいりましたが、近年は首都圏、中京圏、関西圏に次ぐ一大経済圏を形成するに至っております。その中核の地に本拠を構えてまいりました私どもは、このような発展の歴史に微力ながらその一端を担えたことを誇りとし、また自信を持って新たな領域へとチャレンジしていくことを決意いたしております。さらに業界の重要なテーマの一つである自然との調和を大前提とした開発発展に全力を尽くし、新たな空間の創造に躍進していく所存です。

(塩見組 末吉政人)

MY TOWN

見どころろ食べ処

— 名古屋編 —

〔尾張の景観と料理〕

今回は、弊社の近郊で起きた最も有名な事件である、桶狭間合戦の戦場をご紹介します。述べるまでも無く、皆様も良くご存知な合戦です。

駿河を本拠に置く戦国大名の今川義元が、永禄3年(1560年)5月19日早朝に沓掛城を發ち、大高城へ進軍の途中に「おけはざま山」で、尾張の地方勢力でしかなかった、織田信長と遭遇し討死にします。ただ、この敗死の詳細な場所が現在も不明で、有力な候補地の一つが田楽坪です。「信長公記」によれば善照寺砦から中島砦に入り、そして義元が休息していた田楽坪を本隊で急襲したそうです。当日は豪雨が降ったため義元軍の統制も乱れたと思います。其処へ尾張のうつけ者としてこの地を駆け巡っていた信長が、事前の情報キャッチもあったのか、それとも偶発的か、休息場所をピンポイント攻撃し義元を葬り去りました。今川方4万5千(一説には2万5千)に対し尾張軍2千の戦いは、このように呆気なくも

劇的に終わりました。ただし、この合戦の真偽は、江戸時代から多くの説があります。皆様も当地へ来た際は、是非訪れ合戦の模様を、自分流に推理し楽しんでください。

現在この地は、宅地に囲まれ「桶狭間古戦場公園」になっており、弊社から、直線で約3Kmの位置にあります。中島砦から出陣した信長は約4Kmの道程です。義元は、出立した沓掛城から約8Km、大高城まで残り約4Kmで、無念の死を遂げたこととなります。

弊社の周囲にこのような歴史的な合戦場と、東海道五十三次の第四十番鳴海宿も近くにあり、隣の有松間宿は町並みが江戸時代の名残を留めたまま保存されて、休日には、多くの観光客で賑わっています。当緑区は、名古屋市内でも有数のベッドタウンで現在も人口増加中で、市内一のスーパー激戦区とのことです。

名古屋の「うなぎ」と言えば櫃まぶしが有名です。弊社の近

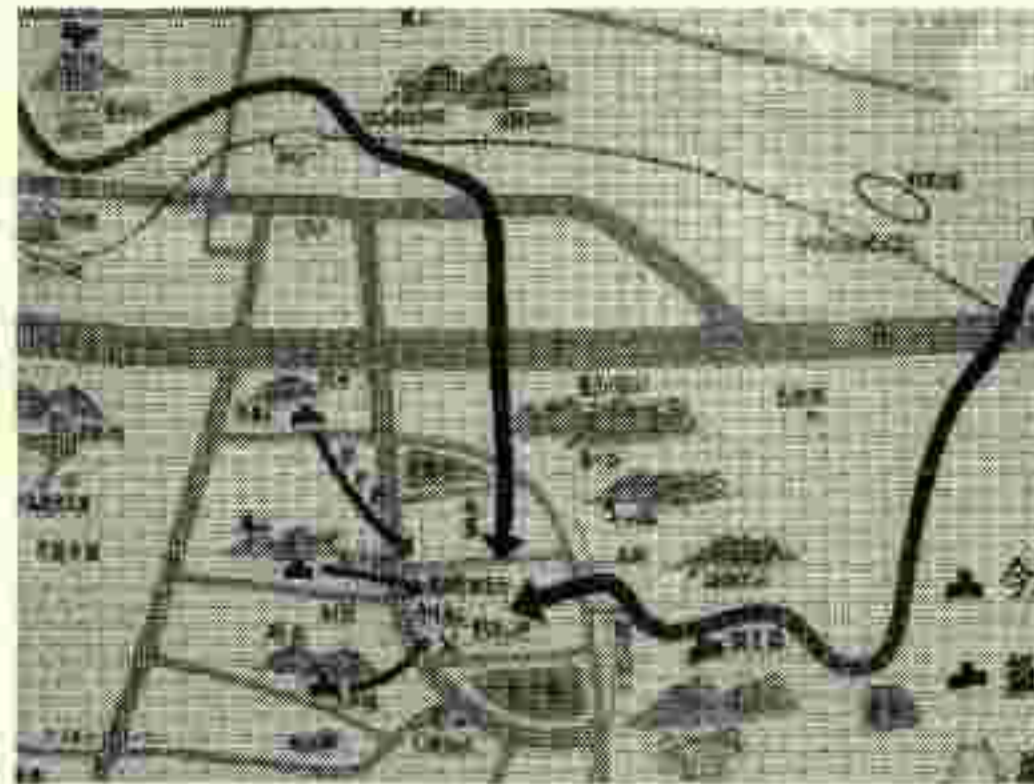
くに、「逢扇」という行列の出来るお店があります。店名からして、熱田神宮の境内にも店がある、創業明治6年の「あつた逢来軒」という老舗の暖簾分とします。平仮名で、「ひつまぶし」は蓬萊軒の登録商標とのことです。私的には、「逢扇」の味が好きです。お櫃のご飯の上へ、刻んだうなぎを載せ、たれもかけます。食べ方は、お櫃よりお茶碗に3～4回に分けてよそい、一杯目

はそのまま食べ、二杯目は刻み海苔や細切り浅葱をかけます。最後の一杯は、特製出し汁で山葵お茶漬けしにして頂きます。くどくなって来た口に、さっぱりとした食感となり、また食が進みます。来社いただいたお客様をお誘いすると、うなぎが苦手な方にも好評で、リピーターとなった方もいらっしゃいます。皆様も「ひつまぶし」を、是非召し上がってください。

(日本車輛製造(株) 山本 忠男)



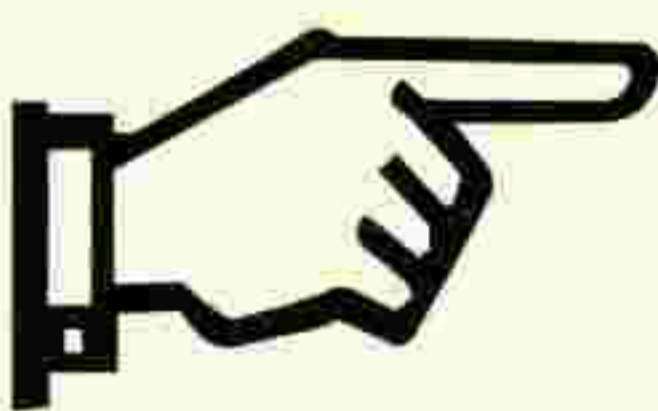
桶狭間古戦場公園の碑



合戦見取図



ひつまぶし



ここにこんな人が  
**わたしの履歴書**

三和機工(株)  
代表取締役社長

**時宗 章**



時宗 章(ときむね あきら)

昭和13年2月26日大阪府生まれ  
昭和59年代表取締役社長に就任

■幼少の頃

小さい頃、祖父に連れられて家の近くの武庫川に釣に行ったり、夏は泳ぎに行ったり、海が近いので、祖父の船で漁に行ったりして、終戦後食べるものが無いときに色々な魚をよく食べました。小さい魚は丸ごと食べないと祖父に叱られたので、全部食べました。そのおかげで現在も健康でいます。

■会社の歴史

昭和25年頃にジェーン台風が大阪方面に上陸したため、海・河川の堤防が決壊し、尼崎で鉄工所を営んでいた我が社も1.2mの高さまで海水に浸かり、復活に10日間ほど

掛かりました。台風で決壊した海岸線の復旧工事のためにゼネコン各社が機械を持ち込みました。現場近くに私の会社があったので、故障するたびに修理を頼まれ、日夜の区別無く仕事に来るようになり、特に杭打機の修理をするようになり建設業界との係わりができました。私は小さい頃より学業の傍ら、家業である鉄工所(三和機工(株)の初代社長である父が昭和21年に創業した)を手伝っておりました。昭和31年高校を卒業してから合資会社三和工作所(三和機工(株)の前身)に入社し、縁あって会社がペデスタル杭用スチームハンマー・ウインチの製作をすることとなり、私も開発設計に携わることとなりました。以来、ベント用ケーシングチューブ、ハンマークラブ、アースオーガ、全周回転掘削機等々杭打機械を開発製作してまいりました。

当社も今年で創業60年になりますが、お得意様にも恵まれ、新しい工法を考えたら「機械は三和に頼めば何とかしてもらえ」と信頼を頂きそれがまた、当社の技術開発の力となり発展させていただきました。昭和59年父である先代社長死去に伴い、三和機工(株)社長に就任。

■信条

最近、製造業は国内から海外へ生産をシフトされています

が残念なことであります。幸いにして日本は高度な資本財、高機能材料の製造では世界でNO.1です。この材料を利用して良い製品を作れば、まだまだ外国には負けないと信じております。

基礎業界の工事も多様化しておりますが、ユーザーのニーズに合った機械を開発し、長く使用できる製品を作るのがメーカーの義務と思っております。

■経営

私は昔から自分自身が健康であり、良い家族にめぐまれ、良き友人がいれば一番幸せであると思っております。会社に例えれば、会社が健全であり、よき社員に恵まれ、良いお得意先に恵まれれば会社は発展すると思っております。それには自分自ししっかりした信念と理念そして学ぶ気持ちを持って行動することだと信じております。

■社員とのコミュニケーション

毎日工場内を廻り、社員一人、一人に声を掛け、対話をしております。各支店にも月に一度は必ず行きますので、行けば必ず工場内を見て廻っております。夜には全員で食事をして、楽しく話をしてコミュニケーションをはかっております。

厚生行事、施設は本社所在の滝野町では滝野工業団地の一員として、積極的に町の行事に参加しており、尼崎市の「ハートプル」福祉共済に加入して、各種給付事業、福祉事業を活用し、色々な施設の利用、種々催にも参加しております。

■趣味

大阪生まれです。勿論先代と親子2代の阪神タイガースのファンです。甲子園球場から3キロ~6キロ離れたところに60年も住んでおりますので当然だと思います。

昨年はエキサイティングな年でありました。しかし私達のユーザーさんはジャイアンツのファンが多くいらっしゃいますので、ジャイアンツの元気がないのが気になります。新生原監督のジャイアンツと優勝を争うのを楽しみにしています。あとは付き合いゴルフ、旅行が好きです。旅行先の美術館を訪ねるのを楽しみにしております。

■今後の展望

今後益々基礎工事の多様化が進む中で、我々メーカーも早急な企業体質の強化と変革をはかり、全社員一丸となって意識改革を他社よりも早く進めて行かなくては会社の存続はないと思っております。

(三和機工(株) 時宗 章)

**編集後記**

協会ニュース発刊にあたり、執筆者の皆様にはご多忙のところ協力頂きまして誠に有難うございました。(編集分科会)